



終焉之地川越市 川合市長、生野 山形県、山形 齋藤副市長、住職を囲んで道祖をしのぶ



田宮流



新田宮流



関口流



山書流 大窪敏明代表



森本邦生貫注代表



無外流



無雙直宗英信流



長谷川流



松岡公樹宗家代表



関口流



無雙直宗英信流

居合抜刀始祖 林崎夢想流祖 林崎甚助重信 略伝 天文 11 年正月出羽楯岡在林崎に生まれる。幼名を民治丸といい、父浅野数馬重治、元足利將軍の家臣幕閣の要職にあった。由有り奥州に旅立ち楯岡城主最上豊前守の家臣となり文武に秀いで多に活躍す。天文 16 年 11 月雪降る中、山形霞城主最上義守候の家臣坂上主膳の夜襲により絶命する。時に民治丸 6 才であった。弘治 2 年民治丸母子意を決し、林崎大明神に父無念仇討宿願と千日の願を掛け修練続く満願の夜社前に於て仮眠する民治丸の夢枕に林崎大明神示現千変万化の法を具現、長柄の刀法に称有り。伝統遂に絶妙に達する居合抜刀の刀法を翻然自悟する。永禄 2 年吉月元服名を林崎甚助重信と改める。永禄 4 年父の仇討本懐を京で遂げり。文禄 4 年 5 月 10 日より慶長 3 年 9 月 15 日まで 7 年間武州一ノ宮(今の太宮)に居住す。元和 2 年 2 月 28 日より翌年 7 月 20 日まで武州川越の甥高松勘兵衛の所に滞在し東奥に旅立つ。途中に於て病死す。時に 73 歳。享保元年 7 月 30 日命没後 98 年目川越蓮馨寺にて仮葬儀をしていたものを大々的に法要を営み墓碑を建立する。高松勘兵衛信助の曾孫(一の宮流奥幸四郎施主)日本を代表する剣士が一同に会せるのも林崎道祖のおかげ。道祖が遺した古流の道は日本の偉大な文化遺産。この居合之道の輪をもっともっと大きく広げて日本民族の柱にしたい。

平成二十八年四月十一日に行われた奉納演武会 大石広治撮影